

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1298700012		
法人名	社会福祉法人希望会		
事業所名	グループホーム希望の里		
所在地	千葉県匝瑳市栢田8645		
自己評価作成日	平成29年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に他法人の職員に来て頂き、見学や話し合いの場を設けたり、当ホーム職員が他法人の施設を伺い、見学や話し合いの場を設けたりと、他法人と交流を図っています。匝瑳市の運営する訪問看護ステーションと24時間365日連絡対応体制を整えており、健康管理、医療的な支援につなげています。市内の歯科医院と連携して訪問診療を毎月行い、口腔ケアの質の向上に努めています。行事としては、他法人のデイサービス、障害者施設のお祭りに参加したり、ボランティア団体を招いての施設内行事、近隣の2つの小学校との交流会、季節の外出行事など数多くの行事を主催しています。法人内の7事業所統一の内部研修資料を毎月作成、全職員に配布し知識の向上に努めています。2ヶ月に1回の運営推進会議では、市職員、民生委員、御家族からの意見を得てサービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

畑に囲まれた静かな環境の中に、「グループホーム希望の里」がある。同法人が経営する併設のケアハウスとデイサービスも近隣にあり、日頃の行き来や合同行事等で交流が行われており、入居者の楽しみとなっている。施設では入居者の「地域に根ざした明るい長寿社会作り」を理念に掲げ、地域に根差した施設運営を目指しており、日頃の挨拶・声掛けや地域行事への参加を通じて、地域との交流を図ると共に、ボランティア団体を招いての施設内行事等、様々な形で地域との交流機会を確保している。日常的な外出の他に、外出行事を定期的に実施しており、戸外での楽しみを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした明るい長寿社会作り、という運営理念を玄関に掲示しています。地域の行事に参加しています。	入居者の「地域に根ざした明るい長寿社会作り」を理念に掲げ事業所内に掲示している。毎月会議にて理念の確認を行い、職員全員が理念を理解し共有している。地域との交流機会を確保しており、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野田小学校や共興小学校と生演奏、ゲーム等の交流会を主催しています。地域のデイサービスや障害者施設の行事に伺い、パンくい競争に参加したり、お祭りを見学したり地域交流をしています。	地域住民とは気軽に挨拶を交わしたり、おすそ分けを頂く等の関係が築かれていると共に、地域のボランティアの受入れや施設行事への招待等で地域との交流を深めている。また、同法人が経営する併設のケアハウスや近隣のデイサービスとの合同行事を通じて、外部との交流が図られている。地域の小学生や障害者施設との交流会も行う等、世代間交流にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から介護相談があると、責任者が相談対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、民生委員、御家族、管理者が2ヶ月に1回集まり、運営推進会議を実施しています。活動報告、活動予定、介護保険に関する事を中心に話し合いをしています。	運営推進会議は年6回、市職員・民生委員・入居者・家族・職員を構成員として開催されている。会議では施設の活動報告を行うと共に、意見や情報の交換等を行いサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、訪問調査の時に情報交換をしています。定期的に広報誌などを配布して、施設のPRをしています。市主催の会議には毎回、参加して情報収集をしたり、助言を頂いています。	市職員とは、日頃から施設運営全般に関する相談や報告を行い、連携を図っている。また、市主催の研修会や匝瑳市介護保険事業者連絡会に参加し、市や同業者との情報・意見交換を行う等、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束における資料を配布しています。外出や外泊や家族との面会を自由に行えるようにしています。原則、日中は、玄関の施錠はしていません。夜間は、防犯のために玄関のカギはかけています。	身体拘束排除・高齢者虐待防止等についてのマニュアルを整備していると共に内部研修の実施・資料の配布等を行い、職員への意義の周知及び理解徹底に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、見守りや声掛けにて入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止法における資料を配布しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、権利擁護における資料を配布しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書について、利用者およびご家族に責任者から丁寧に説明を行っています。疑問点があるかこちらからお伺いして、理解して頂いてから入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市役所職員の案により玄関に目安箱を設置しています。面会時や、電話連絡時などに意見や要望を確認しています。家族の来苑時には、利用者の状態等の状況を説明しています。	苦情・相談窓口を設置していると共に、電話連絡時・面会時に直接家族に意見や要望を確認している。また、運営推進会議においても入居者家族から意見や要望等の確認を行っている。挙げた意見や要望に関しては、職員会議にて検討・周知を行い適切な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設責任者は、職員の意見を否定しないように努めています。提案内容は、検討して、可能な時は運営に反映しています。	定期的に会議を開催しており、職員の意見や提案を確認し、運営に反映させている。また、管理者は随時職員と話す機会作りを心掛け、一人ひとりの思いや意見を引き出すように努めている。他に、OJT体制を取り入れ、職員個々に応じた技術や知識の取得に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算交付金制度について、積極的に、毎年、申請をして就業環境の整備に努めています。法人役員19名には、他法人の役員が多数いるので、事業内容について意見交換をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員の資格取得希望者が、受験対策研修に行く場合は、その会場までの往復の交通費を法人が支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の特養に職員が見学に伺い、話し合いの場を設けています。他法人の職員にも、当施設に見学に来て頂き、交流の場を設けています。計画作成担当者は、市主催の研修会に毎回参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、利用者本人やご家族と面接を行っています。居宅サービスを利用している場合、担当のケアマネジャーと連携をとっています。退院後に入居する場合、病院の医療相談室の職員と連携をとっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、利用者本人やご家族と事前にADLや病歴や趣味などをお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後に必要な介護保険外の福祉用具レンタルについて、入居前にも説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人がお話を楽しめるように配慮して、声掛けをしています。会話をすることで、うちとける事ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、お手紙や面会時にて、身体状況や受診状況、活動内容を説明しています。主治医と話し合った結果、診察に御家族の同席が必要と判断した場合、次回の診察時に同席をして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの、かかりつけ医との関係を継続できるよう、入居後も、かかりつけ医に毎回、診察して頂けるよう、送迎及び付き添いサービスを行い、身体状況等の日常の様子を説明しています。	本人や家族の希望に応じて、ドライブや地域行事への参加等、馴染みの場所への外出支援を行っている。また、友人・知人の来訪を受入れる等、馴染みの人との関係継続も支援している。家族との外出や外泊は自由となっており、家族関係の継続にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとり性格が違うので、楽しく過ごせるように食事の席替えには配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退居された利用者への手紙や通知がいまだに数多く届きますが、毎回、事業所から御家族へお送りしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、生活歴、趣味、利用者と家族の意向を把握しています。歌の好きな利用者が多いので、空いた時間を利用してギター演奏で唱歌などを皆で歌い喜んで頂いています。	入居時に本人や家族から意向・身体状況・生活歴等を確認している。入居後は、日頃の生活の様子や言葉の中から入居者の思いや意向の把握に努め、本人本位でその人らしい生活の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーから、事前に情報を得て、ひととなり把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の観察結果から毎月、課題が何か検討し、課題解決に向けて検討しています。かかりつけ医や訪問看護ステーションからの助言や指示に沿った対応に努めています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の指示や訪問看護師の助言を申し送りノートにて報告しています。毎月、職員会議を実施しています。毎週、訪問看護ステーションと話し合いをしています。毎月、訪問歯科に、指示や助言を頂いています。	入居者や家族の意向を踏まえた上で、職員全員で話し合い介護計画を作成している。また、定期的に評価や目標の達成状況を確認し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。職員は会議や申し送りノート等を活用しながら常に新しい情報を共有し、本人の意向や現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、夜間日誌は、利用者ひとりひとりのその日のケア状況、食事摂取量、水分摂取量、トイレの利用状況が一目でわかるような様式にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が急に、友人に会いにいきたいと言った際にも、付き添いをするなど支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会には制限をかけないので、御家族や友人、知人が自由に面会ができます。地域に長年暮らしている民生委員を招いているので、訪問時に、入居者と交流を図る事ができます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に、主治医と直接会って身体状況等の説明を行っています。毎日のバイタルチェック表の内容を報告しています。訪問看護師とは、毎週、相談及び報告をしています。	協力病院以外にも、かかりつけ医への受診が可能となっており、家族の希望に応じて通院の付き添い支援を行っている。また、訪問看護を実施しており、健康管理や医療面での対応・相談・助言を行う等、連携体制が確立されており、入居者・家族・職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問時以外にも、随時、訪問看護ステーションに連絡し、助言を頂いています。指示に沿った対応に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、御家族、病院の医療相談室、担当の医師と連携を図っています。また、入院中も、定期的に面会にいき、様子観察をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院した際は、御家族、病院の医療相談室、担当の医師と連携を図っています。また、入院中も、定期的に面会にいき、様子観察をしています。	重度化や終末期における施設の方針・指針を明文化し、家族に説明の上、意思を確認している。重度化した場合や終末期においては、協力病院や訪問看護ステーションとの連携体制が確立されており、家族・医師・看護師・職員が話し合いながら、施設として出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、地元の消防署から救命士を2名招いて、実践的な救命講習を開催しています。毎回、わかりやすい資料も持参して頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動火災通報装置、火災報知機、非常灯、消火器を設置しています。平成28年度より、火災以外の災害対策避難訓練も行っています。1回は消防署の立ち会いも依頼し、講評を受けています。	隣接施設と合同で、夜間想定を含む消防避難訓練を、消防署立会いのもと年3回実施している。緊急時・非常災害時のマニュアルが整備されている。また、市の防災対策班を通じて、緊急時・非常災害時の対策等も話し合われており、協力体制が築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルは、所定の場所に保管しています。古い個人ファイルや業務日誌、夜間日誌も大切に保管しています。利用者を尊重し、プライバシーを守るようにしています。声掛けにも細心の注意を払っています。	接遇やプライバシー保護に関するマニュアルを整備する共に、研修を実施する等、職員へ意義の周知徹底を図っている。職員は、入居者への尊敬の気持ちを大切に、見守り・言葉遣いに注意を払う等、入居者の尊厳を守り適切な支援を行っている。	

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、受診の希望や、食事、睡眠、入浴の意見を伺っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝やおやつ、入浴、食事などひとりひとりにあわせた生活の支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、歯みがき、洗顔など本人のペースを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人専属の管理栄養士が、食事から季節を感じられるよう検討して、毎日の献立を作成しています。毎月のお楽しみメニューを利用者と相談しながら考えて決定し、毎月行っています。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・調理・片付け等を共同で行っている。献立は、法人の管理栄養士が作成しており、食材購入は業者に委託している。また、定期的及び季節に考慮しながら外食会や行事食を企画・実施すると共に、入居者の希望・差し入れや収穫された野菜を活用する等、食に対する楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地元産の食材を活用しています。日々の食事量、水分量をひとりひとり把握できるように記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	平成28年度から、匝瑳市内の歯科医院に、毎月、訪問診療をして頂くことで、入れ歯のチェック、口腔衛生などの質の向上に努めています。口腔ケアの実施や、ポリドントでの入れ歯洗浄を実施しています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望者に、法人所有のポータブルトイレを無償貸与しています。利用者毎に排泄パターンが違うので、排泄チェックシートを活用することで、トイレ誘導や声掛けを行い必要な介助を行っています。	排泄の記録を確認しながら排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。必要に応じて、医師や訪問看護ステーションと相談を行い、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事量を記録して、一人一人把握しています。便秘について、かかりつけ医や訪問看護ステーションと情報交換しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本人のペースでゆっくりと入浴できるように支援しています。失禁等があれば、その都度対応して入浴して頂いています。	入浴は定期的に実施されており、入居者の希望や体調に応じて回数等、柔軟に対応している。また、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否のあった場合には、声掛けやタイミングの工夫により無理強いしない対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況にあわせた休息ができるように、ひとりひとり様子をみながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬確認、お薬の残量のチェック、新しく内服するお薬のことなど、適切に把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの希望や力に応じた役割をみつけられるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、季節のお花の観賞、近隣の外出、選挙、他法人のイベントに参加しています。お花見やイベントへの参加について、利用者に参加の希望の有無を確認した後、外出しています。	入居者の体調や希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を実施していると共に、個別の希望にも対応する等、柔軟な外出支援を行っている。また、季節に合わせて外出会等も企画・実施されており、戸外で楽しめるように配慮している。隣接施設との合同行事に積極的に参加する等、気分転換やストレス発散の機会として活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の了解のある方は、家族と取り決めた範囲内で、お金を自由に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じてご家族に電話をしたり、取りついたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に水槽を置く事で癒しの空間となっています。心地よい音楽、室温管理など快適な空間作りに努めています。季節の花や行事の飾りつけをしています。利用者が自身の席がわかるような工夫をしています。声掛けして自席に誘導しています。	施設内は全面バリアフリーで、廊下やトイレ等は十分な介助スペースが確保されている。施設内は日当たりが良く、開放的な窓の前にはソファが設置されており、入居者が思い思いにくつろいだり一息つけるように配慮されている。また、窓の向こうにウッドデッキが設置され、日向ぼっこやお茶飲み等が可能となっており、入居者の楽しみとなっている。カラオケ機・マッサージ機・リハビリ機器等を設置し、入居者への娯楽提供や身体機能の維持・向上に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の気配り、ソファの配置等考慮しています。居室の出入りもお互いの同意のもと、自由にして頂いています。		

【千葉県】グループホーム希望の里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れたものが居室にあると落ち着きますので、本人の使い慣れたものをご自宅から持参して頂いています。転倒しないように、居心地良くすごせるように、居室の環境整備を行っています。	入居者の希望により、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が安心して居心地良く過ごせるように配慮されている。また、畳やカーペット等を敷く事も自由となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置され、適切な空調管理がなされている。他に、収納スペース・鍵・呼び出しボタン等を設置しており、プライバシー確保及び安全面に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には、表札があります。表札の横に、外出行事などで撮影した思い出の写真を貼付しています。トイレは、認識しやすいように工夫しています。		